

Newsletter of Japanese Coral Reef Society

contents	page
西平前会長の学士院賞祝い	2
サンゴマップワークショップキャラバン(1) 東京 那覇 石垣島 開催報告	2
沖ノ鳥島フォーラム2010 学生プロジェクトチーム報告	3
NPO/NGO紹介 -16- [沖縄・生物多様性市民ネットワーク]	3
日本サンゴ礁学会 評議員会議事録	4
日本サンゴ礁学会賞・川口奨励賞公募のご案内	4
サンゴ礁保全委員会活動報告	4
日本サンゴ礁学会 第13回大会のご案内	5
連載3:サンゴ礁関連施設探訪 -22- [国立環境研究所]	6
第1回 海辺の学生フォーラム2010 ご報告	6

会告

日本サンゴ礁学会2010年度大会・総会を、下記の通り開催いたしますのでご出席下さい。

- 大会日程: 2010年12月2日~5日
- 場所: 茨城県つくば市「つくばカピオ」
- 総会: 12月4日(土) 時間など詳細は次号にて



思い出の1枚 (写真提供: 野島哲)

1973年(昭和48年10月)石垣島サンゴ礁のオニヒトデ調査にて。地図を広げているのは西平守孝 前会長(34歳頃)、帽子を被っているのは先頃退官された瀬底臨海実験所元船長の仲村茂夫氏(24歳頃)。

西平前会長の学士院賞祝い

日本学士院エジンバラ公賞を受賞して

西平 守孝 (海洋博記念公園管理財団)



2010年6月21日に、日本学士院エジンバラ公賞を頂きました。これまで多くの方々から頂いた指導・援助・協力・批判・助言などのお陰と感謝しています。私は、昔から生物の生態分布に興味があり、もっぱら野外の調査・観察を、時に荒っぽい野外実験を交えながら、続けてきました。棲息場所を限定せず、生物群も限定せず、どのような場所にどのような生物がいかほどいて、何をしているか、どのような筋道でその状況ができて上がり、維持され、変化するか、というようなことを観てきました。その過程で、生物による棲息場所形成と生物の棲み込み関係をすこし異なる角度から考え、いろいろな観察から帰納的に「棲み込み連鎖」の考えにまとめました。多くの観察が束ねられて次第に太くなった、当然の帰結という感じです。これからも「流されず、逆らわず」に、この考えがどこまで通用するかを楽しみながら検証し展開して、少しでも社会に役立てて行きたいと思っています。

西平さん、この度はエジンバラ公賞の受賞本当におめでとうございます。これまでの西平さんの業績に最もふさわしい賞だと思っています。

西平さんとの思い出は数多くありますが、最初の出会いの頃のことを書かせて頂こうと思います。大学2年生の頃サンゴ礁の研究がやりたくて、渡辺暉先生の紹介で、仙台の西平さんに手紙を出したのは40年余りも前でした。まだサンゴ礁の「さ」の字も解らない「ひよっこ」に西平さんから心のこもった丁寧なはがきをいただきました。大学を卒業して、山口から仙台に行き、直ぐにでもサンゴ礁の研究がやれると思った時に、加藤陸奥雄先生から「野島君、金華山で西平と一緒に鹿の研究をやたまえ」と言われて、少なからず落ち込んだのを記憶しています。また、西平さんと一緒に金華山の神社の一室に泊まり、秋の風と鹿の鳴き声を聞きながら、本当に将来西平さんと一緒にサンゴ礁の

研究がやれるようになるのだろうか、不安になったこともありました。西平さんが仙台からいよいよ復帰前の琉球大学に転任になるときに、奥さんやまだ小さかった守正君と一緒に浅海の臨海実験所に連れて行ってもらいました。その時、ハマナスの木に囲まれた畑井新喜司先生の記念碑に刻まれている、畑井先生の口癖「それは君大変おもしろい 君ひとつやってみたまえ」の意味の深さも教えてもらったことを良く覚えています。あれから40年、今でも現場でのサンゴの研究を続けることができたのは、ひとえに西平さんとの出会いがあったからと深く感謝しています。この度の受賞本当におめでとうございます。

野島 哲
(九州大学・理学部)

日本学士院エジンバラ公賞受賞おめでとうございます。私は学生時代から数えて40年以上も西平前会長とおつきあいをさせて頂いています。その歴史の中で最も重要なことは北国にいた私をサンゴ礁研究に導いて下さったことです。その過程で誰にも追従できない日本のサンゴ類のまとめや、沖縄の潮間帯の詳細な記述など、数え切れない成果を拝見することが出来ました。研究方法に関する豊富なアイデアやひらめきには幾度も驚かされたものです。凡人は地道に活動することが重要であるとその度に感じました。後輩は先輩を追い抜いてこそ意味があると認識していますが、常に背中を見つめて居る自分を見て、前会長の偉大さを感じています。

土屋 誠
(琉球大学・理学部)

西平先生、日本学士院エジンバラ公賞で受賞、おめでとうございます。お祝いにかけて、先生の「棲み込み連鎖」概念の、サンゴ礁にとどまらない生態学的な意味を、私なりに学会員にお伝えします。欧米における群集生態学は、競争と捕食・被食に着目した、「相手をやっつける」生態学です。一方「棲み込み連鎖」は、「ともに生きる」生態学です。どちらも群集では起こっていますが、例えばサンゴ礁群集の高い種多様性を説明するには、「棲み込み連鎖」がより有効です。サンゴ同士のようにニッチが似ている種の間では競争が起こりますが、私はこのような種間でも、「棲み込み連鎖」が起こりうると考えており、先生の不肖の弟子として、「棲み込み連鎖」概念を発展できればと思う次第です。ほんとうにおめでとうございます。

酒井 一彦
(琉球大学・熱帯生物圏研究センター)



サンゴマップワークショップキャラバン in 東京 那覇 石垣島

開催報告

～ 3月5日はサンゴの日 生物多様性年 2010 企画 ～

日本全国みんなで作るサンゴマップ実行委員 翁長 均 info@sangomap.jp http://www.sangomap.jp

「3月5日はサンゴの日」にちなんで、2月14日(東京)、2月28日(那覇市)、3月5日(石垣市)と、3ヶ所の会場にてサンゴマップワークショップキャラバンを開催しました。研究者から一般の方、サンゴ移植関係者の方まで幅広くお集まりいただき、石垣では地元テレビ局も取材に来ていただくなど盛り上がりました。



写真(上): 那覇ワークショップでサンゴマップを紹介する筆者

(下): 石垣ワークショップとてもいい雰囲気でした

「サンゴマップ」は、ダイバーをはじめとする市民からのサンゴ目撃情報を広く集め、日本全国のサンゴ地図を作ろうというプロジェクトです。現在、日本全国のサンゴ分布図は約20年前に行われた調査を元に作成されたものがありますが、その後の大規模な白化現象やオニヒトデ被害によりサンゴ礁の状況は一変してしまいました。そこで新しい分布図を作るために始まったこのサンゴマッププロジェクト。生物多様性年である今年、サンゴマップは3年目を迎える様々な面で活用され成果をあげています。

今回のキャラバンでは、参加者へのサンゴマップの紹介と、これまでの成果を報告しました。寄せられた情報を元にした研究により、サンゴ分布の北限が海水温の変化によってダイナミックに変化していることが分かった(山野・浪崎 2009)。ことや、大堀健司実行委員からは、石垣島では小学校の総合学習にサンゴマップを取

り入れ、生徒たち先生方が情報を提供してくださっているという報告もありました。誰でも簡単に参加できるという利点から、サンゴ分布図をつくるという本来の目的に加え、子供たちの環境学習にもつながっているといううれしいニュースです。さらにダイビング指導団体PADIのスペシャリティコースに採用されるなど、今後さらにファンダイバーへの普及も期待されています。

しかし、まだまだ情報が少ないサンゴマップ。参加者をさらに増やすことが今後の課題です。「『こういう風に活用している』ということを広くブログ等で発信したらどうだろうか?」「やっぱり投稿したら何らかの特典(携帯待受画面DL・ステッカーなどの景品や投稿数ランキングなど)が欲しいですね」「投稿された写真を見られるようにしてほしい」

様々な意見交換がされました。実行委員として情報提供者の投稿意欲をあげる仕組み作りが必要だと強く感じました。

また、植え付けサンゴ情報、赤土情報や産卵情報などとリンクさせるシステムや、WWF ジャパンが作成したサンゴ群集形成のポテンシャル地図と関連させ地域を特定して情報募集を行うなど、様々なアイデアが出され、今後どんどん発展していきそうなサンゴマップ。これからが楽しみです。みなさんから寄せられた情報は、HP上の地図に赤や緑のマークで見ることができます。一度ご覧ください。どなたでも簡単に参加することができますので、ぜひみなさんも情報提供を!一緒に日本沿岸を赤いマークで埋め尽くしませんか!?

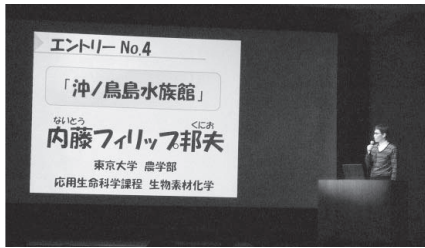
参考文献

山野博哉・浪崎直子(2009) 最前線のサンゴ: 千葉県館山のエンタクミドリシ群落の変化. 日本サンゴ礁学会誌 11: 71-72



沖ノ鳥島フォーラム 2010 学生プロジェクトチーム報告

沖ノ鳥島フォーラム 2010 学生プロジェクトチーム (青木健次、本郷宙軌、井上志保里、山本琢朗、佐藤静香、西村絵美)



写真：上) 夢を描け!! 沖ノ鳥島創造コンテストの様子
下) お笑いで学ぶ沖ノ鳥島の様子

沖ノ鳥島は学会員にとっては、よく耳にする島ですが、行ったことがない島 No.1 です。そんな沖ノ鳥島を広く国民に知ってもらうために、平成 22 年 1 月 23 日、船の科学館において「沖ノ鳥島フォーラム 2010」が開催されました。このフォーラムは今回で 4 回目となり、今回の狙いは、①次世代

を担う大学(院)生に沖ノ鳥島について考える機会の提供、②将来の沖ノ鳥島を支える人材育成、③新たな発想を活かしたフォーラム作り、の 3 点でした。特に③の新たな発想の面で、過去にない新鮮な視点からの企画によって、沖ノ鳥島の重要性をアピールすることがねらいとなっていました。そんな中、東京都の呼びかけで学会員を含む、東京大学・東京海洋大学の大学生、大学院生、研究員を中心とした計 6 名の学生プロジェクトチームが結成されました。

幾度となく、プロジェクトチーム内で話し合いを重ねながら、プログラムをデザインし、アイデアを形にしていくことで、メイン企画として「夢を描け!! 沖ノ鳥島創造コンテスト」、サブ企画として「お笑いで学ぶ沖ノ鳥島」を行うことになりました。コンテスト本番では、一次選考(書類審査)を通過した 6 名の学生に、応募者自身が考える理想の沖ノ鳥島をキャンパスに描いてもらい、発表してもらいました。審査では、沖ノ鳥島が持つポテンシャルや発展性、さらには離島ならではのあり方などを審査項目として、沖ノ鳥島と関わりのある特別審査員 5 名に加えて、来場の一般参加者にも投票してもらうことで、沖ノ鳥島について真剣に考えてもらえるように工夫を凝らしました。見事、最優秀賞に選ばれた富山大学の学生には、小笠原父島ペア船券が贈呈

されました。しかし、プロジェクトチームの本音としては、ぜひ沖ノ鳥島ペア旅行券を贈呈したいと考えていましたが、その実現には課題が多いのが現状です。これは、次回フォーラムへの課題として検討したいと思います。

サブ企画の「お笑いで学ぶ沖ノ鳥島」は、学術・社会的関心が高いことから、敷居が高くなりがちな沖ノ鳥島を、もっと身近に感じてもらうための企画でした。サンゴの産卵をネタにした漫才やコントなどを披露してもらったところ、会場からはときおり笑いが聞こえ、プロジェクトチームの狙い通りの効果があったようです。

今回のフォーラムを通して、サンゴ礁からなる沖ノ鳥島の重要性を、十分アピールすることができました。また、企画を進める上で、応募者および様々な関係者と話し合いをすることで、沖ノ鳥島のみならず、サンゴ礁全体の重要性についても議論することで、新たなサンゴ礁研究の種をみつけるきっかけができました。今回のように、学生が主体となっていく企画では、思うように事が進まないことが多々あります。しかし、その反面、多くのことを学ぶことができます。今後は、サンゴ礁学会でも、若手企画型の一般普及講演会等の開催が強く望まれます。

NPO/NGO 紹介

- 16 -

沖縄・生物多様性市民ネットワーク

沖縄・生物多様性市民ネットワークの活動について

河村雅美、安部真理子

沖縄・生物多様性市民ネットワーク(以下沖縄 BD)は、2010 年 10 月、名古屋で行われる第 10 回生物多様性締約国会議(COP10)に向けて、沖縄の生物多様性保全に取り組もうとする市民により、2009 年 7 月に結成されました。現在、沖縄本島、石垣島、西表島などの沖縄各地のみならず、東京、大阪、名古屋からの約 170 名の個人会員と 18 の団体会員で構成されています。

沖縄 BD は、沖縄の歴史的な背景から「環境、人権、平和」を柱として、生物多様性や生物多様性条約についてともに学び、その取り組みを発信・共有することを目指して活動しています。沖縄 BD の活動についていくつかご紹介いたします。

1. 「生物多様性」の学習・啓発
「生物多様性」の概念については、日本ではまだまだ知られておらず、学ぶツールも整っていないのが現状です。私たちも、地域の自分たちの周りにあるものを通して「生物多様性」について学び、その重要性を伝えていこうという試みを行っています。

そのひとつが、ネットワーク内の写

真家によりたちあがった巡回合同写真展「生物多様性ってなーに」です。沖縄の生物多様性の豊かさを、まず見ることで感じてみよう、という取り組みが昨年 9 月から始まり、すでに 4 回行われました。また、写真展の開催に併せて、写真家を講師とした撮影会の試みもやんばるの高江で行われました。

また、生物多様性を学ぶツール作成にも着手し、作業チームが作成した教材による「生物多様性出前講座」もスタートしました。その他にも、ピンポイントのテーマで生物多様性を学ぶ「生物多様性ノレッジカフェ」も随時開催しています。

2. 生物多様性保全活動の支援

沖縄では、様々な団体が生物多様性の保全活動を行っています。沖縄 BD ではネットワークの利点をいかし、単独では難しい取り組みの支援を行っています。

2009 年の 9 月には、地元団体(沖縄リーフチェック研究会、すなっく・スナフキン、じゅごんの里)による大浦湾チリビシのアオサンゴの天然記念物指定陳情の賛同団体として、支援を行いました。陳情にともない、大浦湾のアオサ

ゴを沖縄の宝として守り、次世代に伝えていくことの重要性を市民と共有するシンポジウム「アオサンゴを天然記念物にしよう〜『生物多様性』を学ぼう・守ろう」を開催しました。現在、県議会で継続審議中です。

3. 行政・国際社会への提言

生物多様性保全のためには、行政や、他機関への働きかけが重要です。沖縄 BD では、生物多様性に関するパブリックコメントを随時提出したり、沖縄で 12 月に行われた国連環境計画による「環境規範と軍事活動に関する国際市民社会作業部会」に参加、発表するなど積極的な提言活動も行っています。

今後は、10 月の COP10 に向けて、ポジションパーペーパーやブースの準備などの取り組みが必要になってきますが、COP10 後の沖縄の生物多様性保全の活動の基盤となる取り組みを行っていくことを目指していきたいと思っております。



2010 年 1 月合同写真展 那覇



2010 年 2 月 撮影会 高江



2009 年 10 月 生物多様性ノレッジカフェ

沖縄・生物多様性市民ネットワーク

〒901-2213 沖縄県宜野湾市志真志 4-24-7 セミナーハウス 304 号室
NPO 法人「奥間川流域保護基金」事務所内
TEL/FAX 098-897-0090 090-2516-7969 (事務局 吉川秀樹)
E-mail: okinawabd@gmail.com
HP: <http://www.bd.libre-okinawa.com/> blog: <http://okinawabd.ti-da.net/>

2010-2011 年度 日本サンゴ礁学会 第1回 評議員会 議事録ダイジェスト版 (詳細版は学会 HP 参照)

日時: 2010年7月24日(土) 14:00 ~ 17:00 場所: 沖縄県那覇市「八汐荘」大広間

■ 出席者: 22名、委任状 11名、書記: 浪崎直子

1. 2009 - 2010 年度活動報告及び 2010-2011 年度活動計画

①事務局報告 (茅根)

- * 会員動向(2010年6月30日現在)、会計収支: 2009 - 2010年度が報告された。
- * 先進陸水海洋学会日本大会(琵琶湖)への後援、国際生物学賞に Ove Hoegh-Guldberg 氏を推薦したことが報告された。沖縄研究奨励賞推薦応募の協力願いが届いていることが報告された。

②企画委員会 (鈴木 款)

- * 10th ICRS プロシーディングスの販売状況報告 (27部残)、日本サンゴ礁学会編「現代サンゴ礁学」(東海大学出版会)の進捗状況が報告された。
- * 第2回アジア・太平洋サンゴ礁学会(2ndAPCRS)に川口基金から2名の若手研究者を派遣し、ニュースレターに報告記事掲載予定であることが報告された。
- * 10月のCOP10のサイドイベントを学会から応募したことが報告された。
- * 若手研究者のキャリアパス問題として、今年から育成事業を組織予定。会員獲得の具体的なプランとして次回大会でのレクチャーシリーズ開催、企業協賛の募集を行う。さらに会員サービス充実のため、内容を学会誌の解説記事として掲載する。

③学会誌編集委員会 (山野)

- * Galaxea11-2と日本サンゴ礁学会誌11を2009年12月に発行。Galaxea12-1(英文・7編)を2010年6月に発行、会員到着予定。論文賞: 2論文(Kai et al., Agostini et al.)に謹呈。Galaxea、日本サンゴ礁学会誌ともに、J-STAGEにて公開中。学会誌がJ-STAGEに掲載されたことを、Coral listで告知する。
- * 原稿区分: 「討論」「Comments, Reply」新設、出版された論文に対する議論を掲載。APCRS プロシーディングス: Galaxea13-1として発行予定。来年6月号を予定。
- * 学会誌発行: Galaxea12-2と日本サンゴ礁学会誌12を2010年12月に発行。
- * 財政状況を考慮し、Galaxea(英文誌)のJ-STAGEでのオンライン化、日本サンゴ礁学会誌(和文誌)の冊子体維持についての提案があり、総会に諮ることとした。
- * 論文賞: 2年に一度のため今年度の予定はなし。
- * レクチャーシリーズの解説原稿を日本サンゴ礁学会誌に掲載することを検討
- * 編集委員増員のため、立候補、推薦を募る。

④広報委員会 (藤村)

- * ニュースレター(NL) No.44(1月)、No.45(4月)を発行。電子化: 年4回発行のうち1,4,7月号は会友・賛助・団体を除く会員への紙媒体発送を停止、10月号はす

べての会員への紙媒体発送を停止とした。来年度から年間計82万円削減予定。名誉会員への紙媒体送付が承認された。ウェブサイト更新(評議員会議事録の掲載、新着情報の更新)。2ndAPCRSでのブース出展報告。2010/2011活動計画: NLNo.46~No.49を発行。保全委員会と連携した広報活動を予定。

⑤国際連携委員会 (日高)

- * 2ndAPCRS: JCRSブースの出展。日本人コンピーナー15名(参加者80余名)。第3回は台湾で決定。アジア太平洋サンゴ礁学会設立。JCRSとの連携は、2ndAPCRSのプロシーディングス発行。台湾サンゴ礁学会との交流: 土屋会長が現地へ赴き、今後連携を強化することに。ISRS(The International Society for Reef Studies)選挙: 評議員に波利井氏(琉大)を推薦。

⑥保全委員会 (鹿熊)

- * サンゴ移植に替わる(同時に実施する)具体的保全活動の模索。研究者とステークホルダーの協働: WWFしらほサンゴ村の事例紹介、公民館の活用が提案。保全活動を推進する仕組み(たとえば大会での保全奨励賞授与等)が検討された。つくば大会での自由集会を開催予定。水産庁事業環境・生態系保全活動支援事業で、サンゴ礁の専門家として登録して欲しい。特別採捕許可の運用に問題点あり、勉強会を開催予定。

⑦安全委員会 (岡本) 委員長欠席

- * ⑧学会賞選考委員会 (井龍)
- * 川口奨励賞、学会賞の募集は細則を変更した。これまでNLに掲載していたが、電子化に伴い、今年はウェブとMLで募集。ぜひ推薦を。

⑨用語委員会 (茅根)

- * 地形学辞典、完成に向け順調に進んでいる。

⑩選挙管理委員会 (山口)

- * 選挙は2011年、公示文章をNL No.49に掲載予定。NL電子化後初の選挙のため、ウェブにNLに掲載する際、アナウンスのMLに目次をつけるようにする。投票用紙等は事務局で手配。

2. 2010年大会について (山野)

- * 大会準備・予定などについての報告: 詳細はHPの大会案内ページに掲載。

3. その他懸案事項

- * ICRS(酒井): 2012年オーストラリアで開催、招待講演(45分)希望者がいれば連絡を。
- * 会費についての提案(佐藤): 会費変更は総会マターであるため、持ち越し。
- * 地球惑星連合(渡邊): サンゴ礁セッション開催の報告。

日本サンゴ礁学会では、平成22年度日本サンゴ礁学会賞授賞候補者及び日本サンゴ礁学会川口奨励賞(以下、川口賞と略)授賞候補者の推薦を公募いたします。

学会賞は、国内外のサンゴ礁に関連する研究、調査を対象とする優秀な業績を挙げ、かつ学会へ多大な貢献をした学会員に贈られます。川口賞は、国内外のサンゴ礁に関連する研究、調査を対象とする優秀な業績を挙げた若手の学会員に贈られ、賞の対象となる若手の年齢は、平成22年11月末日に38歳以下の方とします。

応募要領は、8月中旬までに、日本サンゴ礁学会のホームページに掲載されます。多くの方に推薦(自薦も可)していただけますよう、よろしくお願いたします。

サンゴ礁保全委員会活動報告 (HP掲載予定)

経済同友会主催、第3回シンポジウム&NPO・社会起業見本市(メッセ): 21世紀の社会変革(ソーシャル・イノベーション)が2010年1月20日に丸ビルホールにて開催されました。

サンゴ礁保全委員会から中野義勝(琉球大学)・安村茂樹(WWFジャパン)・木村匡(自然環境研究センター)・中井達郎(国土館大学)が出席し、石西礁湖自然再生協議会及び沖縄県サンゴ礁保全推進協議会のブース展示に協力しました。基調講演及びパネルディスカッションでは、社会起業とは、営利企業が手につけない活動について、持続的な運営をできるような最低限の利益を生み出すような仕組みだとし、初期投資としてボランティア経済を活用する上で、社会に本当に必要とする「共感」が重要とされ、保全活動にも参考になると思われました。

木村・中野

日本サンゴ礁学会 第13回大会

日本サンゴ礁学会第13回大会を2010年12月2日～5日に茨城県つくば市「つくばカピオ」で開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

ご案内

第13回大会実行委員長: 国立環境研究所 山野 博哉 TEL: 029-850-2477 e-mail: hyamano@nies.go.jp

2010年12月2日(木)～12月5日(日) 茨城県つくば市「つくばカピオ」 <地図案内> http://enjoy-live.net/detail/detail.php?hall_id=1519

スケジュール

- ▶ 9月30日(木) 発表・事前参加申込締切 (電子メールおよび郵送により受付)
- ▶ 10月20日(水) 要旨締め切り (電子メールおよび郵送により受付)
- ▶ 10月29日(金) 大会費事前払い振込み期限 (これ以降は当日払いとなります)
- ▶ 12月1日(水)～2日(木) 評議員会、各種委員会
- ▶ 12月2日(木) 大会初日
 - 午前: 評議員会
 - 午後: 大会受付・口頭発表
 - 夕方以降: 自由集会
- ▶ 12月3日(金) 大会2日目
 - 終日: 口頭発表 昼: ポスター発表
 - 午後: 新学術領域公開ワークショップ
 - 夕方以降: 自由集会
- ▶ 12月4日(土) 大会3日目
 - 午前: 口頭発表 昼: ポスター発表
 - 午後: 土屋会長、西平前会長記念講演会・総会・懇親会
- ▶ 12月5日(日) 大会4日目 公開シンポジウム (発表申込者多数の場合は午前口頭発表)

大会参加申し込み、および研究発表申し込み方法

- 大会参加申し込み・大会費等振込先 (9/30まで)
(日本サンゴ礁学会HP内にある参加・発表の申し込みフォーム(Excelファイル)をご利用ください)
参加者名簿作成のため、大会にご参加の方は必要事項をご記入の上、9月30日(木) 厳守で大会事務局(山野宛)までe-mailまたは郵送でお申し込み下さい(郵送の場合は必着)。

【 申込先 】

日本サンゴ礁学会第13回大会事務局
〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2
独立行政法人 国立環境研究所
地球環境研究センター 衛星観測研究室
e-mail: 13thjcrs@gmail.com (subjectを"jcrs13 参加申込"としてください)

【 記入事項 】

参加者氏名・所属: (学生の方は、その旨お知らせ下さい)
参加者連絡先: (勤務・通学先または自宅) 住所・電話・Fax・e-mail
参加内容: 発表(有・無)、懇親会(参加・不参加)
(日本サンゴ礁学会HP内にある参加・発表の申し込みフォーム(Excelファイル)にご記入の上お送りください)

【 振り込み方法 】

(事前のお振り込みにご協力下さい。10/23まで)
参加登録料: 振込み手数料はご負担下さい。
参加費支払い方法: 郵便振替(10月23日まで)・当日支払い

参加登録料: 振込み手数料はご負担下さい。	事前振り込み(10/23)		当日支払い	
	一般	学生	一般	学生
登録料	会員 6,000円	3,500円	7,000円	4,500円
	非会員 8,000円	5,000円	9,000円	6,000円
懇親会費	5,000円	3,000円	6,000円	4,000円

郵便振替口座番号: 00150-2-401709
口座名称: 日本サンゴ礁学会第13回大会
通信欄の記入事項: 氏名, 所属, 一般・学生, 懇親会への参加・不参加
* 複数の方がまとめて振り込まれても結構です。この場合も、上記を明記して下さい。
* 新規会員の方の登録料は無料です。懇親会費のみをお振込み下さい。
(※ 郵便局以外の金融機関から振り込む場合: 店名: 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019) 預金種目: 当座 口座番号: 0401709)

● 研究発表について

注) 発表を行う場合には、発表者は発表時に学会員であることが必要です。

○口頭発表の講演時間は質疑応答を含めて1人15分です。発表機材は液晶プロジェクターを用意いたします。

○ポスター発表はパネルの大きさが約180cm(縦)×90cm(横)です。この範囲に収まるように各自ポスターの大きさを設定してください。

○優秀発表賞について
今大会では、優秀発表賞の選考を行います。ポスター・口頭発表、それぞれの形式ごとに受賞者を決定いたします。対象は選考を希望する発表者です。選考内容は、研究内容およびプレゼンテーションの方法です。本賞にエントリーを希望される方は、研究発表申込時に申告していただきますようお願いいたします。

1) 研究発表申し込み先 (9/30まで)

研究発表をされる方は、発表題目ごとに必要事項をご記入の上、9月30日(木) 厳守で電子メールによりお申し込みください(郵送の場合はご相談下さい)。なお、発表は一人につき口頭・ポスター各1演題までとさせていただきます。

【 申込先 】

日本サンゴ礁学会第13回大会事務局
〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2
独立行政法人 国立環境研究所
地球環境研究センター 衛星観測研究室
e-mail: 13thjcrs@gmail.com (subjectを"jcrs13 参加発表申込"としてください)

【 記入事項 】

発表題目
発表者氏名・所属
発表内容の概略(100字程度)
発表形態: 口頭発表・ポスター発表 を選択
優秀発表賞へのエントリー: 有・無 を選択
発表形態は、人数等の都合で実行委員会にて調整させていただきます。ご希望に添えない場合もございますが、予めご了承下さい。

2) 要旨集原稿作成要項、および送付先 (10/20まで)

【 要 項 】(レイアウトの統一にご協力下さい)
用紙サイズ: A4 1枚, 上下3cm・左右2.5cmをあける
書 式:
(一行目) タイトル MSゴシック、14pt、中央揃え
(二行目以降) 氏名 MS明朝、12pt、中央揃え 発表者氏名の前に○印
(三行目以降) 所属 MS明朝、10pt、中央揃え
(四行目以降) 本文 MS明朝、12pt、左揃え
(最終行) キーワード MS明朝、12pt、左揃え
"キーワード:" に続けて入力
その他: 図表、写真は適宜貼りこんで下さい。

【 電子メールによるPDFファイル添付送信の場合 】
subject(件名)それぞれ「JCRS13 要旨」としてください。

特殊なフォントを使用される場合は必ずフォントの埋め込み設定を行ってからPDF化してください。

● 託児所について

児童の保育を必要とする方のため、会場内での託児所の設置あるいは近隣の託児所の紹介を行い、その費用の一部を助成します。保育を希望される方は、必ず大会申し込みのメール本文に、対象となる児童の年齢、預ける日時(予定で結構です)を明記ください。また、会場内の部屋を保育室として開放することとしましたので、保護者の方の同伴の上でご自由にご利用ください。

公開シンポジウム (準備中)

- 日時: 12月5日(日)
- テーマ: サンゴ礁の生物多様性を支える分類研究とその応用
- オーガナイザー: 加藤亜記(琉球大学)・安村茂樹(WWF ジャパン)
- 詳細は後日、学会 ML および web に掲載します。

受賞記念講演会

- 西平守孝前会長日本学士院エジンバラ公賞受賞・土屋誠会長平成22年度環境保全功労賞受賞 -

- 日時: 12月4日(土) 午後
- 詳細は後日、学会 ML および web に掲載します。

公開ワークショップ

- 日時: 12月3日(金) 午後
- テーマ: 『新学術領域研究「サンゴ礁学の新たな展開」』
- 詳細は後日、学会 ML および web に掲載します。

自由集会 (提案募集)

- 日時: 12月2日(木) 夕方以降及び3日(金) 夕方以降
- 学会参加者が自由に企画する集会を募集し、採択された企画には大会委員会が実施場所を提供し、集会の実施は企画者に委ねる「自由集会」を数件採択します。
- 詳細は後日、学会 ML および web に掲載します。学会の Web ページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jcrs/>) から参加・発表の申し込みフォーム(Excelファイル)がダウンロードできます。こちらに記入してe-mailで添付送信すると大変便利です。このファイルでは参加と発表の申し込みが一度に行えます。

NPO ポスターコーナー (出展団体募集)

- 学会の社会連携を推進するため、サンゴ礁に関する活動を行うNPO(非営利団体・任意団体も歓迎)のポスターコーナーを設置します。出展団体から1名のみ参加費無料。
- 詳細は後日、学会 ML および web に掲載します。

連載 1

サンゴ礁関連施設 深訪 INQUIRY -22-

国立環境研究所

山野 博哉

国立環境研究所地球環境研究センター
国立環境研究所 HP: <http://www.nies.go.jp/>
メールアドレス: hyamano@nies.go.jp



国立環境研究所は、茨城県つくば市にある環境省所管の独立行政法人で、現在の正職員数は、研究部門が185人、その他が58人の計243人です。

1974年に環境庁付属の国立公害研究所として発足し、1990年に国立環境研究所となり、2001年に同名の独立行政法人となりました。独立行政法人の国立という名前が相変わらず付いていますが、固有名詞と考えるのがおすすめです。

国立環境研究所の研究組織は、プロジェクトベースの研究を行う研究センターあるいは研究グループと、それ以外の基盤領域と呼ばれる研究領域からなります(注)。基盤領域の部署の名称は、社会環境システム研究領域、化学環境研究領域、環境健康研究領域、大気圏環境研究領域、水圏環境研究領域、生物圏環境研究領域、環境研究基盤技術ラボラトリーとなっており、この名称の多彩さからも、多様な観点から環境研究が行われていることを推察していただけたと思います。

私の所属する部署は「地球環境研究センター」で、地球温暖化に関わるプロジェクト研究を中心に行っています。こうした部署は、他に、循環型社会・廃棄物研究センター、環境リスク研究センター、アジア自然共生研究グループがあり、こちら名称から想像できるプロジェクト指向の研究を行っています。

現在のところ、サンゴ礁研究を専門に行っている正職員は私しかおらず、永らく孤軍奮闘状態が続いていましたが、2009年度には鈴木倫太郎さん、浪崎直子さん、石原光則さんが、2010年度から

は杉原薫さんが研究チームに加わってくれました(写真)。また、皆様ご存じの通り、サンゴ礁研究は学際的なものですから、所内の他領域の方々にも協力してもらって一緒に研究を進めています(例えば、流域からの赤土流出に関しては水圏環境研究領域、褐虫藻に関しては生物圏環境研究領域、化学分析に関しては環境研究基盤技術ラボラトリー)。

最後に、私の研究室の設備をご紹介します。備わっているものは、リモートセンシングに関係する機器(スペクトル計、MINI-PAM、光量子計、高精度GPS、測量機器など)と画像解析システムで、2010年度からはこれらに杉原さん所有のサンゴ標本が大量に加わります。実験やサンプルの処理・分析には不十分で、所内外の共同研究者の設備を使わせていただいておりますが、衛星画像や空中写真などのリモートセンシング技術と、現場でのサンゴ観察に基づいた研究は十分にできると思います。こうした設備を使って一緒に研究したいという方は、ぜひお越し下さい。写真の面々が全力で歓迎いたします。もちろん、ただ単に遊びに来たいという方も大歓迎で、同様に全力で歓迎させていただきます。

(注) 現在、国立環境研究所は、2011年度からの第3期中期計画に向けて組織改編中で、2011年度からは、私の所属はおろか、所内の組織も大幅に変わっている可能性があります。

第1回 海辺の学生フォーラム2010 ご報告

玉川大学教育学部 相良 菜央 nao55@eos.ocn.ne.jp



分科会：3月6日、分科会の様子。

2010年3月6日~7日、東京海洋大学にて「第1回 海辺の学生フォーラム2010」が開催されました。現役の大学生・高校生が実行委員を務めた「学生フォーラム」ですが、「海に“学”び親しんで“生”きている人は、皆“学生”」という観点から、海をテーマに学び活動している人々が交流し、海辺の未来を担うリーダー像を思い描きました。

当日は朝から生憎の雨模様でしたが、雨は海の水が蒸発して降るものなので、これも海からの贈りものだと感じながら本フォーラムは始まりを迎えました。

ゲストスピーカーによる基調講演では、フリーダイバーである篠宮隆三さん、海洋ジャーナリストである内田正洋さんにお話をいただきました。海中や海上での実体験に基づく話から、「海辺の未来を担うリーダー像」を考える話、「One Ocean」と



無事終了：3月7日、閉会式後の集合写真。

いう言葉に込められた話をしてくださり、会場にいらっしゃる方々は真剣な眼差しで聴いていました。

各々の活動を紹介しあう UMI-COLLECTION では、団体ごとにポスターを持ち、自分の活動をアピールしました。ジュゴンに着ぐるみを着た団体や、海藻やパラオをイメージさせる衣装で登場した団体もあり、それぞれの演出が会場を沸かせました。

そして、本フォーラムのメインプログラムである分科会では「海辺の未来に生きる 僕らの描くリーダー像」をテーマに、「自然環境」「教育」「レジャー」「メディア」「暮らし」の5つのグループに分かれ、ディスカッションが行われました。それぞれの視点における現在の問題点から、未来に向けてどうリーダー像を描けば海辺の未来がよりよいものになるのかを考えました。時間が経つにつれ各グループ

の海に対する熱い想いが出てきて、全体討論した際には各々の想いをぶつけ合いました。

最後のプログラムとしては、今年が国際生物多様性年であることから、自由に「生物多様性」というものを表現するコンテストが行われました。バンド、絵本、アイスブレイキングの要素を含んだゲームなど様々な表現が発表され、机上の学問とは違った遊びの要素から生物多様性を学ぶ時間となりました。

閉会式の終盤、「海辺の未来に生きるリーダー像」の想いや誓いをそれぞれ宣言カードに書き綴りました。全員で輪になり、1人ひとりの宣言を分かち合ったあの時間は忘れられません。

2日間を通して見られたたくさんの笑顔は、人々をつなぐ海からの贈りものであったと思います。またそれは人から海への贈りものでもあったと感じながら、本フォーラムは終わりを迎えました。

現在、実行委員で「第2回 海辺の学生フォーラム2011」について話し合っています。この文章を読んでくださっている方にぜひ参加していただけたらと思います。

経験も運営力も不足している私たち実行委員に協力して下さった団体、施設の方々に深く感謝しています。沢山の方々のご協力のもと、無事に「第1回海辺の学生フォーラム2010」を終えることが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

編集後記

今年は学会員に対する表彰が相次ぎました。今後さらなる学会の発展に対応するため、広報委員会では若手のご参加お待ちしております。最寄りの広報委員または評議員まで御連絡ください。

編集担当 中村



2010年8月10日発行

日本サンゴ礁学会ニュースレター [2010 / 2011 No.1]
Newsletter of Japanese Coral Reef Society No.46

- 編集・発行人 / 「日本サンゴ礁学会広報委員会」
- 藤村 弘行・安部 真理子・梅澤 有・鈴木 倫太郎・中村 崇・浪崎 直子・日比野 浩平・渡邊 敦
- 発行所 / 日本サンゴ礁学会 ● 事務局 / 茅根 創 <kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp>
- 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻 Fax: 03-3814-6358